希望の明日

２００９年６月２３日　２７号

生存権裁判を支援する北海道の会
事務局：北海道生活と健康を守る会連合会
札幌市西区八軒８条東５丁目４－２０
TEL(011)736-1722　FAX(011)736-1688
メール：doseiren@joy.ocn.ne.jp

「考えよう！子どもの貧困」

～6・13　生存権裁判を考えるつどいに200名の参加～

生存権裁判原告と弁護団

6月13日、札幌市内で生存権裁判を考える集いが、道高教組、道教組、道社保協、道生存権裁判を支援する会の4者共同で開かれ、会場一杯の200名が集まりました。

つどいは、櫻井幹二道高教組委員長の、子どもの貧困の実態を「リアルに知り」「共有」し「何ができるか共に考えよう」という挨拶に始まり、5人のシンポジストや会場から、子ども達の深刻な実態とそれに対する各分野の取り組みが語られました。青木代表のシンポジウムのまとめの後、生存権裁判の原告(菊池繭美さん・伊藤弘美さん)と弁護団の紹介と挨拶、支援する会からの訴えへと続き、最後は新保裕道教組書記次長が挨拶し閉会となりました。

参加者からは、募金12，810円、新入会4名、署名15筆と感想が多数寄せられました。

シンポジストの発言から

鈴木令子さん（ポプラ保育園園長）

・園の中では「子どもの貧困」はすぐには見えないが、見る目を持てばその深刻さが見えてくる。とりわけ、シングルマザーが子育てしつつ働くことは本当に難しい。何とか支えようと頑張っているが、保育制度改悪の下で保育士が疲弊し、園がセーフティネットたりうるか非常に限界を感じている。

中村昭人さん（札幌西陵高校教諭）

・「普通の高校」と言われてきたが、ハローワークにほとんど求人がなくとまどうような仕事しかない。授業料免除が13%、母子家庭も15%に。親のリストラで就職活動したが失敗し意欲を失った子を今春何とか卒業させた。

柏原伸広さん（道勤医協本部組織広報部長）～スライド上映

・保険証が無くて5人の患者さんが手遅れで亡くなった。「無料・低額診療制度」を是非知らせたいと、161カ所を訪問し懇談した結果、学校などから子どもの医療の深刻な実態が多数寄せられた。昨年無保険の子ども達の救済がはかられたのは運動の成果。低体重児の成人病起源の研究も開始した。

清水由香さん（新日本婦人の会白石支部）

・母子家庭では子どもが親を気遣って、高校進学や新しい靴を買うのを我慢している。知人はすぐ買いに行こうと言えなかったと泣いていた。

・ギリギリの所から母子加算を削るとは！離婚は自分の選択とはいってもこれは自己責任なのか。もう個人の頑張りの限界を超えている。

細川久美子さん（精神障害者を支援する会）

・今まで多くの生活相談を受けてきたが10年ほど前から質が変わり、母親自身が心を病んで来る事例が7割近くに急増している（4件の事例を紹介）。経済面だけではなく、子育て仕切れない状態の母親が相談できる場が余りに少ない。裁判の原告にも心を病む人がいたが、仲間に支えられて思いを語るようになってきた。その心の叫びを一緒に受け止めて頑張っていきたい。

会場からも多くの意見が

・中学校の養護の先生からは保健室から見た中学生の実態を報告。～修学旅行費用の捻出が大変で去年は2人行けず1人はどんどんすさんでいってしまった。

・原告の菊地さんは涙ぐみながら「（原告になることを）お母さんがそうしたいなら構わないよ」と息子に背中を押され、母子加算削減後の大変さを訴えたいと心の中から思うことが出来るようになった、と発言。

・全国でも画期的な「福祉給付金」8，000円を母子世帯などに支給した東川町の鶴間町議は、「希望するすべての子どもを学校に」は「行政の責任」と述べた松岡市郎町長の思いを語り、皆さんの街でもぜひこの制度のご検討を、と訴えました。

・そのほか2名の方から、子ども自身の意見表明の大切さなどのご指摘がありました。

○ 青木紀代表（コメンテーター）のまとめ

・シンポジストや発言者から多くの刺激を受けた。子どもの貧困が子どもの身体や心にまで及んでいる様子（低体重児の研究や子ども自身が要求を抑制してしまう問題）が分かった。これは従来とは違う、明らかに新たな段階といえる。

・しかし、まだ多くの人が子育ては親の責任という考えに縛られている。その人達を説得するために私たちが「何を言うか」が問題。そこを共に考えよう。

◇生存権裁判を支援する会からの訴え◇（三浦誠一事務局長）

①「母子加算復活法案」の採択へ「生活保護の『母子加算』復活を求める要請」をFAXしよう。

②街頭宣伝へのご参加を！6／18（木）札幌大通、10／13（火）釧路和商市場前。

③裁判への傍聴参加を。 9／4（金）10時～札幌地裁、10／13（火）14時～釧路地裁。

④「支援する会」へのご入会・募金をお願いします。

～感想文から～・お金が無くて修学旅行にいけないのは悲しい。もっと日本が国民のための政治をすればいいと思います（障害を抱えた方）。

・とても勉強になりました。これからも自分なりに考えていきたい（学生）

・東川町の福祉給付金はすごい。拍手を送ります。

・菊地さんのお話に涙がこぼれました。これからも応援していきます。

・清水さんの話に涙。社会のせいですよ、本当に！大人が頑張らないと！

・会員さんの娘が無料低額診療を受けて元気になった。深く感謝しています。